

RICHARD MILLE SUZUKA Sound of ENGINE 2017 冠スポンサー決定および新イベント開催のご案内

鈴鹿サーキット(三重県鈴鹿市)で2017年11月18日(土)・19日(日)に開催する「SUZUKA Sound of ENGINE 2017」は、スイスの高級時計メーカー「RICHARD MILLE(リシャール・ミル)」が昨年に引き続き冠スポンサーとなり、「RICHARD MILLE SUZUKA Sound of ENGINE 2017」として、開催が決定したことをご案内いたします。

日本初の本格的な国際レーシングコースとして開場した鈴鹿サーキットは、2012年に50周年を迎え、次の50年に向けてスタートいたしました。鈴鹿サーキットは、この歴史的価値を絶やすことなく維持し続けるために、モータースポーツが持つ貴重な歴史にスポットライトを当てた本ヒストリックイベントを、2015年より開催しています。

「RICHARD MILLE SUZUKA Sound of ENGINE 2017」では、国内はもとより世界のモータースポーツシーンに影響を与えた2輪、4輪のレーシングマシンが集結し、さらにレジェンドドライバー、ライダーたちが、様々なカテゴリーのヒストリック・レーシングマシンを走らせるイベントです。また、本イベントでは、懐かしのF1サウンドを響かせる、MASTERS HISTORIC FORMULA ONEのデモンストレーションを開催することを合わせてご案内いたします。

なお、前売チケットは9月17日(日)より販売開始予定です。

【冠スポンサー】

RICHARD MILLE(リシャール・ミル)について

幾多のラグジュアリーブランドでマネジメントを務めたリシャール・ミル氏が「腕時計のF1」をコンセプトに設立した、スイスの高級時計メーカー。2001年に発表した最初のモデル『RM 001トゥールビヨン』から現在まで、70種を超えるモデルから成るコレクションには、技術と新しいアイデアの最も優れた面、着け心地の良さを徹底的に追求したデザイン、オート・オルジュリーの伝統を踏まえた手作業による仕上げが施され、F1や航空宇宙産業において使われる技術と素材を採用し、妥協や見せかけの技巧を全て排除した究極の時計作りを目指しています。リシャール・ミル氏自身が、自らステアリングを握り、ル・マン・クラシックなどにも出場する生粋のエンスーージアストということもあり、ヒストリックカーやモータースポーツとの関係も深く、2年に一度ル・マン・サルト・サーキットを使用して行われるヒストリックカーレース『ル・マン・クラシック』のほか、フランスのドメーヌ・ドゥ・シャンティイで2014年からスタートしたコンクール・デレガンス『シャンティイ・アート&エレガンス』といった、ヒストリック・イベントへのスポンサーを展開。2016年の本イベントでは、リシャール・ミル氏の個人コレクションであり、チャンピオン・マシンでもある1973年型のティレル006と1975年型のフェラーリ312Tを自らがドライブしました。



RICHARD MILLE SUZUKA Sound of ENGINE 2016
LEGEND of Formula1 スタートシーン



RICHARD MILLE SUZUKA Sound of ENGINE 2016にて
フェラーリ312Tのcockpitに座るリシャール・ミル氏

【イベント概要】

■イベント名称： RICHARD MILLE SUZUKA Sound of ENGINE 2017

■開催日： 2017年11月18日(土)・19日(日) ※11月17日(金)テストデー

■開催場所： 鈴鹿サーキット国際レーシングコース&パドック

■開催マシンカテゴリー：

<カテゴリー1> LEGEND of Formula1

今もなおF1グランプリを開催する鈴鹿サーキット。世界有数のクラシカルサーキットにおいて、レジェンドFormula1のサウンドが響き渡る。

<カテゴリー2> GroupC

メーカーの威信をかけて開発されたモンスター“GroupC”。今なお伝説として語られるマシンたちが、現代の鈴鹿サーキットに復活。

<カテゴリー3> 60年代のレーシングマシン

1962年、日本初の本格的な国際レーシングコースとして鈴鹿サーキットが誕生。創生期の鈴鹿サーキットを駆け抜けた名車たちが再び鈴鹿サーキットに戻ってきます。

<カテゴリー4> モーターサイクルの原点

60年代から70年代にかけて、日本のモーターサイクルスポーツを支えた2輪の貴重な名車が素晴らしいサウンドを奏でます。

<スペシャルカテゴリー> Masters Historic Formula1 Demonstration

欧米で開催されているMasters Historic Formula1とコラボレーションし、レジェンドF1 約10台によるデモンストレーションを開催。

他、総数300台を超えるヒストリックレーシングマシンが集結いたします。

■イベントロゴ：



SUZUKA Sound of ENGINE 2017 RICHARD MILLE

【TOPICS】SUZUKA Sound of ENGINEに初めて出演するGroupCマシンが続々と決定。

昨年のSUZUKA Sound of ENGINEにおいて、フィーチャリングカテゴリーとして注目されたGroupC。2017年もGroupCカテゴリーのマシンが早くも出演が決定。SUZUKA Sound of ENGINE初登場のマシンも決定しました。

<出演が決定したGroupCマシン>

1986 Lancia Ferrari LC2 #9 (マルティニカラー)

1986 NISSAN R86V

1989 MAZDA 767B

1986 Porsche962LM Rothmans ver.

1983 NISSAN SILVIA TURBO C Nichira March83G

1985 MCS・Guppy

1994 TAISAN STAR CARD Porsche962



1986 Lancia Ferrari LC2 #9



1989 MAZDA 767B

MASTERS HISTORIC FORMULA ONE デモンストレーションを開催

「RICHARD MILLE SUZUKA Sound of ENGINE 2017」では、MASTERS HISTORIC FORMULA ONE (マスターズ・ヒストリック・フォーミュラ1)のデモンストレーションを開催いたします。このMASTERS HISTORIC FORMULA ONEは、3リッターエンジンを搭載した1966年から1985年のF1マシンで競われるシリーズで、グラウンドエフェクトの有無、年式などによって四つのクラスに分けられ、ヨーロッパ内でシリーズ戦が行われています。2016年シーズンは、合計63台の往年のF1マシンがシーズンを通して参戦、また同様のシリーズが北米でも行われており、2016年F1アメリカGP・メキシコGPのサポートレースとして行われたレースでは、ロータスF1のコレクターでもある久保田克昭氏が4レース中3レースで優勝を飾っています。

本イベントでは、往年のF1マシン10台によるデモンストレーションを開催。選手権同様のクラス分けは行わず、11月18日(土)はスペシャルステージ方式で1台ずつのタイムアタック走行を実施、19日(日)はローリングスタートでのデモンストレーションレースを開催します。コレクターでもあるマシンオーナーなどがステアリングを握り、往年のF1マシンが懐かしのサウンドを響かせ、鈴鹿サーキットを駆け抜けます。

開催時間、来場マシンの詳細は、決定次第ご案内いたします。



2017 FIA MASTERS HISTORIC FORMULA ONE CHAMPIONSHIP
開幕戦スペイン・バルセロナのスタートシーン

FIA MASTERS HISTORIC FORMULA ONE CHAMPIONSHIP(FIAマスターズ・ヒストリック・フォーミュラ1選手権)について

2017年シリーズは4月にスペイン・バルセロナで開幕し、10月の最終戦ポルトガル・エストリルまで計8戦で競われる、FIA(国際自動車連盟)格式のヒストリックF1シリーズ。

1966年から1985年の間にF1世界選手権シリーズに参戦した、3リッターエンジンを搭載する車両が参戦可能で、エンジン・マシンは当時のオリジナルである必要がある。なお、コスワース・DFVエンジン(3リッター・V型8気筒)を使用している車両はエンジンの回転数が、10,000回転に制限される。また、グラウンドエフェクトの有無、年式などによって四つのクラスに区分される。

- ジャッキー・スチュワートクラス: 1972年末までに製造されたF1マシン
- エマーソン・フィッティパルディクラス: 1973年以降に製造された非グラウンドエフェクトF1マシン
- パトリック・ヘッドクラス: 1973年以降に製造されたグラウンドエフェクトF1マシン
- ニキ・ラウダ・クラス: 1973年以降に製造されたフラットボトムのF1マシン

また、参加ドライバーは国際C級ライセンス以上の保持者であることが義務付けられている。